

5ステージすべて委嘱初演

もやい 舩の会第13回演奏会

加藤 良一

令和4年(2022) 9月11日

もやい
舩の会は昭和58年(1983)、指揮者の岸信介さん（前全日本合唱連盟理事長）のもとに創設された団体です。「岸」に繋がれた舩綱に舟（各合唱団）が連なる様から名付けられました。現在28団体が所属しており、総勢450名にもおよぶ大きな団体です。

創団以来3年ごとに演奏会を開いてきましたが、令和2年(2020) 3月に開催を予定したものの、コロナ禍で延期を余儀なくされ、今年になってようやく開催に漕ぎつけました。平成28年(2016) 6月の第12回以来6年振りの演奏会です。

今回特筆すべき点は、全5ステージすべてが委嘱初演の組曲で埋められていたことです。信長貴富、千原英喜、山下祐加、木下牧子、新実徳英という当代一流の作曲家が揃うということも注目すべきことです。コロナ禍で演奏会が開けず委嘱作品の初演が遅れ、今回一挙に演奏したというところでしょうか。もやい
舩の会の前会長・故村田充さんと現副会長・中島文子さんは筆者が埼玉県合唱連盟理事をしていたときに一緒に仕事をさせて頂いた旧知の仲です。岸さんは全日本合唱連盟理事長職を辞された現在、本腰を入れてもやい
舩の会の指導に当たっておられると思います。

日 時： 2022年8月23日

会 場： 東京文化会館大ホール

指 揮： 岸 信介

1st.Stage

信長貴富作曲・阪田寛夫作詩

女声合唱曲集『からからと鳴る日々』（委嘱初演）

信長貴富作詩・作曲

岸信介の傘寿と藍綬褒章受章を祝して

ほ
祝ぎ歌（委嘱初演）

ピアノ：由良郁子

合唱：インサラータ・ヴォカーレ、コーロ・アミーチ、こーろ・たまゆら、しらたま、

女声合唱団花の風、蕨女声合唱団

2nd.Stage

千原英喜作曲・谷川俊太郎作詩

女声合唱とピアノのための『詩人の墓』〈第一部〉（委嘱初演）

ピアノ：前田勝則

合唱：女声合唱団ジュディ、女声合唱団「調」、Stella Mariano、東京ウィメンズ・コーラル・ソサエティ、横浜グローリア女声合唱団、Rosa Mariano

3rd.Stage

山下祐加作曲・サトウハチロー作詩

混声合唱組曲『美しきためいき』（委嘱初演）

山下祐加作曲・サトウハチロー作詩

岸信介の傘寿と藍綬褒章受章を祝して

「それでそれでそれで」（委嘱初演）

ピアノ：佐藤文雄

合唱：あーる合唱団、浦和混声合唱団、Gemischter Chor TOKYO、東京都庁合唱団、浜松合唱団、浜松少年少女合唱団

4th.Stage

木下牧子作曲・島崎藤村作詩

女声合唱曲集『銀の笛 みどりの月影』（委嘱初演）

ピアノ：五十嵐稔

合唱：浦和女声合唱団、ヴォーチェ アルジェンティーナ、女声合唱団はづき、東京ウィメンズ・コーラル・ソサエティ、ぱ・あ・ぱ

5th.Stage

新実徳英作曲・谷川俊太郎作詩

女声合唱とピアノのための『音のとびら』（委嘱初演）

ピアノ：法嶋晶子

合唱：アンサンブル リモーネ、グローリア女声合唱団、東京フラウエン・カンマーコール、浜松フラウエンコール、マザーグース合唱団

□ プログラムより □

* 『からからと鳴る日々』 信長貴富

これは阪田寛夫の詩集から採集した組曲です。6曲目の終曲「からからと鳴る日々」は『詩集 サッちゃん』所収の詩で、「七月積んで父のため／八月積んで母のため／そのはてにまだ／九月 十月／力なげにとぶ蝶々／十一月に／石をなげる／からからと鳴る／十二月」は、仏教の声明のひとつ「賽さいの河原和讃」からの引用です。親よりも先に逝った子が、賽の河原で石を積んでも積んでも鬼に崩されるという無限の悲しみの繰り返しを描いています。積み上げたものが一瞬のうちに崩されてしまう、「石積みは私たちの人生そのものですよ、というのがこの説話の教えとのこと。なかなか切ないお話です」

『祝ほぎ歌』 信長貴富

信長貴富さんが初めて作詩した曲です。「岸信介の傘寿と藍綬褒章受章を祝して」歌詩の頭おりに折句りく

のように「きししんすけ もやい」を一字ずつ折り込んでいます。

きちじつ ね しんしん
吉日に／潮の音わたり／駢駢と／進みゆけ／慶春の海 ...
もがき／やまぬ／いのち／黙し／躍躍と／息づく ...

* 『詩人の墓』 千原英喜

「詩人の墓」という詩は、絵本のようなシンプルな文体。声のパートが絵本の文章、ピアノを絵に見立て、歌は率直なメロディーを心がけたといいます。

* 『美しきためいき』 山下祐加

数年前にサトウハチローの「それでそれでそれで」という詩に出会って以来、この作品への思いを募らせてきました。組曲の題名はサトウハチローの詩集『美しきためいき サトウハチロー抒情詩集』からつけられました。

『それでそれでそれで』 山下祐加

信長さんと同じく「岸信介の傘寿と藍綬褒章受章を祝して」作曲されました。

「一番好きな季節は／あしたか あさってか そのあたりから／春になるという季節です／おだやかなのに ちょっぴりつめたく／そうかと思うと ほんりのあたたかく…／あの人に／よく似ていると おもうから／それで それで それで ……」

* 『銀の笛 みどりの月影』 木下牧子

この作品は舩の会による委嘱初演4作目。島崎藤村の女性の視点で書かれた格調高くロマンティックな詩は、女声合唱に合うと作曲しました。全5曲のうち、3曲目の「逃げ水」だけア・カペラとなっています。組曲のタイトルは、終曲の「月光 其の三」の中から採りました。

* 『音のとびら』 新実徳英

詩人谷川俊太郎さんについて作曲家は、次のように述べています。

宇宙の深淵をさりげなく切り取って、「ほら」と見せて下さる。僕はといえば、はっと気付かされ、目と耳が啓かれ、音がやってきて、それを書き留め確かめていけば良い、というありがたい時間をいただいた。自分のような者も「心理」に触れることができる、という悦びだったろうか。

この曲は、2020年の初演に向けて準備していたが、延期につぐ延期で今回ようやく日の目を見ることになりました。

舩の会所属の合唱団は現在28、驚異的規模です。岸信介さんの地元埼玉はじめ関東周辺が中心ですが、静岡や関西からも参加しており、全体をまとめるのは大変なことと思います。益々のご発展をお祈りいたします。

Back

音楽・合唱コーナーTOPへ

Home

HOME PAGEへ